

人文学研究科

学位プログラム： 芸術学

授与する学位： 修士（文学）、博士（文学）

教育目標

【博士前期課程】

大阪大学および人文学研究科の教育目標のもと、学位プログラム「芸術学」では、過去においても現代においても、他の何ものによっても置き換え不可能な営みである芸術について、全国的にも類を見ない規模の充実した体制のもと、専門的・先端的であると同時に学際的な多様性を備えた教育を行ないます。

学位プログラム「芸術学」は、美学・文芸学、音楽学・演劇学、日本東洋美術史・西洋美術史、アートメディア論の4コースから成ります。本学位プログラムでは、以下のような教育を目標とします。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・芸術に関する最先端かつ高度な専門性と幅広い学識を体系的に学ぶとともに、その学識に基づく独創的な研究を、論理的かつ明晰なかたちで第三者に伝達する力を養う。

○高度な教養

- ・芸術全般に関する幅広い教養と、その教養を常にアップデートする高度な情報リテラシーを培う。

○高度な国際性

- ・世界諸地域と日本の多様なジャンル・領域の芸術の研究を通し、他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を涵養する。
- ・豊かで論理的な日本語能力と、国際共通語である英語、そして専門分野に関わる諸外国語の高度な運用能力を養う。

○高度なデザイン力

- ・芸術学領域の学識を核として世界を探究し、独創的な研究を構想する力を培うとともに、その成果を現代社会の諸課題の解決に接続する、柔軟で実践的なヴィジョンとデザイン力を養う。

○独自の教育目標

- ・芸術学の諸領域に関する高度な研究能力を備えた研究者・専門職業人を育成するとともに、多様な芸術分野を網羅した本学位プログラムの特徴を生かし、芸術に関するジェネラリスト的な職能を養う。

【博士後期課程】

大阪大学および人文学研究科の教育目標のもと、学位プログラム「芸術学」では、過去においても現代においても、他の何ものによっても置き換え不可能な営みである芸術について、全国的

にも類を見ない規模の充実した体制のもと、高度に専門的・先端的であると同時に学際的な多様性を備えた教育を行ないます。

学位プログラム「芸術学」は、美学・文芸学、音楽学・演劇学、日本東洋美術史・西洋美術史、アートメディア論の4コースから成ります。本学位プログラムでは、以下のような教育を目標とします。

○**最先端かつ高度な専門性と深い学識**

- ・芸術に関する最先端かつ高度な専門性と幅広い学識を体系的に学ぶとともに、その学識に基づく独創的な研究を、論理的かつ明瞭なかたちで第三者に伝達する力を養う。

○**高度な教養**

- ・芸術全般に関する幅広い教養と、その教養を常にアップデートする高度な情報リテラシーを培う。

○**高度な国際性**

- ・豊かで論理的な日本語能力と、国際共通語である英語、そして専門分野に関わる諸外国語の高度な運用能力を養う。
- ・世界諸地域と日本の多様なジャンル・領域の芸術の研究を通し、他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を涵養する。

○**高度なデザイン力**

- ・芸術学領域の学識を核として世界を探究し、独創的な研究を構想する力を培うとともに、その成果を現代社会の諸課題の解決に接続する、柔軟で実践的なヴィジョンとデザイン力を養う。

○**独自の教育目標**

- ・芸術学の諸領域に関する高度な研究能力を備えた研究者・専門職業人を育成するとともに、多様な芸術分野を網羅した本学位プログラムの特徴を生かし、芸術に関するジェネラリスト的な職能を養う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

大阪大学および人文学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「芸術学」は、芸術の作品や様態に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士前期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に修士（文学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・芸術学諸分野の研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、文献を正確に読解する高度な専門性を身につけ、先端的な研究を実現する能力を有している。
- ・明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力を身につけている。

○高度な教養

- ・芸術学全般に関する幅広い教養と、その教養を常にアップデートする高度な情報リテラシーを身につけ、独創的な研究を行う能力を有している。

○高度な国際性

- ・世界諸地域と日本の多様なジャンル・領域の芸術の研究を通して、異文化に対する高度な知識、鋭敏な感受性および深い理解力を身につけている。
- ・国際的に活躍できる高い言語運用能力を身につけている。

○高度なデザイン力

- ・学問における独自の研究テーマを設定し、現代社会の諸問題を解決する構想・デザイン力を身につけている。

○独自の学習目標

- ・芸術学に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力に基づいて、独創性を備えた修士論文を作成できる。
- ・特定の課題について独創性のある研究成果をあげることができる。同時に、芸術学領域の幅広い分野を網羅した本学位プログラムの特徴を生かし、芸術諸分野に関するジェネラリスト的な職能を養うこともできる。

【博士後期課程】

大阪大学および人文学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「芸術学」は、芸術の作品や様態に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士後期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に博士（文学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・芸術学諸分野の研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、文献を正確に読解する高度な専門性を身につけ、先端的な研究を自立して高度に実現する能力を有している。
- ・明解な論旨で一貫した構成の論文を自立して作成しうる、十分に高度な論述能力と豊かな文章表現力を身につけている。

○高度な教養

- ・芸術学全般に関する幅広い教養と、その教養を常にアップデートする高度な情報リテラシーを身につけ、独創的な研究を自立して行うのに十分な能力を有している。

○高度な国際性

- ・日本と世界の多様なジャンル・領域の芸術の研究を通して、異文化に対する高度な知識、鋭敏な感受性および深い理解力を、極めて高度に身につけている。
- ・自立した研究者として国際的に活躍できる高度な言語運用能力を身につけている。

○高度なデザイン力

- ・先行研究を広く踏まえつつ、芸術に関する知の地平を拡大する豊かな感性と優れた探求能力に基づき、現代社会の諸問題を解決する構想・デザイン力を身につけている。

○独自の学習目標

- ・芸術学に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力に基づいて、独創性を備えた博士論文を作成することができる。
- ・特定の課題について独創性のある研究成果をあげることができる。同時に、芸術学領域の幅広い分野を網羅した本学位プログラムの特徴を生かし、芸術諸分野に関するジェネラリスト的で高度な職能を養うこともできる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

大阪大学および人文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「芸術学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

各領域の特性に根ざし、芸術作品や関連資料の調査研究に関わる講義・演習科目を中心に、インターンシップを含む実践的な能力養成にも力を入れた教育を行います。

学位プログラム「芸術学」は、美学・文芸学コース、音楽学・演劇学コース、日本東洋美術史・西洋美術史コース、アートメディア論コースの4コースにわかれ、それぞれコースの学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

<教育課程編成の考え方>

2年間の課程を通じて、専門教育、教養教育、国際性涵養教育の3つの柱に基づいた科目編成を行い、芸術学を中心とした人文学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養います。

- 専門教育**：「専門教育科目」により、当該分野に必要な専門知識と研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。また、年次ごとに研究計画と研究報告書の作成を課し、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力を高め、高度な専門性を備えた修士論文、もしくは、特定の課題について独創性のある研究成果の完成へと導きます。また、芸術学領域の幅広い分野を網羅した本学位プログラムの特徴を生かし、芸術諸分野に関するジェネラリスト的な職能を養うことが可能なようカリキュラムを編成しています。
- 教養教育**：「高度教養教育科目」により、専門分野以外の学問分野や領域横断的な分野に関する高度な教養を培います。
- 国際性涵養教育**：「高度国際性涵養教育科目」により、高度な外国語運用能力、異文化や他者に対する感受性と知識を涵養します。また、海外の諸大学との交流協定等に則った留学、海外研修、国際交流への参加を促すことで、上記の能力や知識をさらに高めます。

<学修内容及び学修方法>

講義科目では、個々の主題に関する体系的な知識を習得するとともに、与えられる論述課題を通じて、自力で資料を収集・分析・考察し、その結果を的確かつ論理的に構成・表現する能力を身につけます。また、演習科目では、各人が口頭発表を行うことで、日本語ならびに外国語の文献資料の高度な読解・分析能力、調査・研究を的確に遂行する能力、その結果を論理的かつ説得的に発信する能力を身につけます。

また、人文学研究科共通の必修科目として、1年次に「人文学」の基礎知識を学ぶ「人文学基礎（人文学と対話）」（1単位）と、高度教養教育科目として開講される「人文学基礎（現代の教養）」（1単位）を履修します。

○**専門教育**：講義科目と演習科目からなる「専門教育科目」から選択履修します。専門分野によっては学外でのインターンシップ他、実践的な場での経験を重視した科目も開講しています。また、修士論文作成、もしくは、特定の課題について独創性のある研究を通じて、独自の課題について、主体的に考究・発信する能力を身につけます。

○**教養教育**：講義科目と演習科目からなる「高度教養教育科目」から選択履修します。

○**国際性涵養教育**：主として講義科目からなる「高度国際性涵養教育科目」から選択履修します。

<学修成果の評価方法>

講義科目、演習科目においては、シラバス等に記載されている学習目標の達成度に従い、成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

修士論文においては、複数の審査員が、主題選択の妥当性、論述の明晰さ、資料・文献調査の適切性、主張の独自性などを総合的に判断し、評価します。

【博士後期課程】

大阪大学および人文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「芸術学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

各領域の特性に根ざし、芸術作品や関連資料の調査研究に関わる講義・演習科目を中心に、インターンシップを含む実践的な能力養成にも力を入れた教育を行います。

学位プログラム「芸術学」は、美学・文芸学コース、音楽学・演劇学コース、日本東洋美術史・西洋美術史コース、アートメディア論コースの4コースにわかれ、それぞれコースの学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

<教育課程編成の考え方>

所属する専門分野の講義、演習を通して当該分野に必要な深い学識と高度な研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。年次ごとに研究計画と研究報告書の作成を課し、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力をさらに高めます。

博士論文作成の準備のために、2年次以降に博士予備論文の提出を課します。最終年次には、自立した専門家としての独創性を備えた博士論文の完成へと導きます。

海外の諸大学との交流協定等に則った留学、海外研修、国際交流を積極的に促します。

<学修内容及び学修方法>

講義科目を通じて、高度な教養ならびに高度な専門性と深い学識を身につけます。

演習・実習科目を通じて、①日本語ならびに外国語の文献資料の高度な読解・分析能力、②調査・研究を的確に遂行する能力、③その結果を論理的かつ説得的に発信する能力を身につけます。

博士論文作成を通じて、独自の課題について、学問的価値の高い成果を主体的に考究・発信する能力を身につけます。

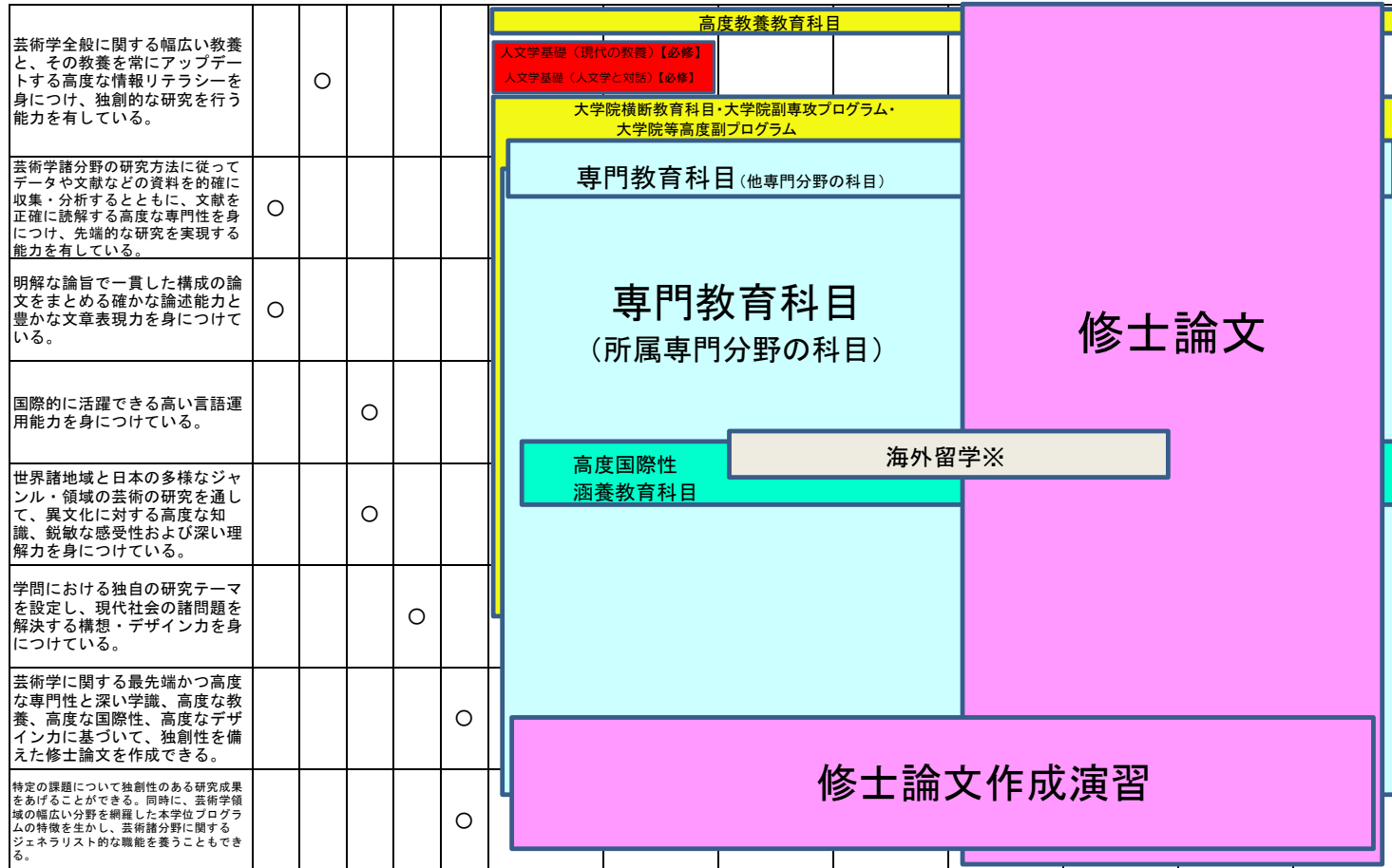
<学修成果の評価方法>

講義科目、演習科目においては、シラバス等に記載されている学習目標の達成度に従い、成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

博士論文においては、複数の審査員が、主題選択の妥当性、論述の明晰さ、資料・文献調査の適切性、主張の独自性などを総合的に判断し、評価します。

人文学研究科芸術学専攻カリキュラムマップ_博士前期課程 学位プログラム「芸術学」

| 最先端かつ高度な専門性と深い学識 | 高度な教養 | 国際性 | 高度なデザイン力 | 独自の教育目標 | 博士前期1年 | | | | 博士前期2年 | | | |
|------------------|-------|-----|----------|---------|--------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| | | | | | 春学期 | 夏学期 | 秋学期 | 冬学期 | 春学期 | 夏学期 | 秋学期 | 冬学期 |



※海外留学は、必須ではありません。

交換留学およびエラスムス・ムンドゥス・マスタープログラム（ユーロカルチャー）を希望する場合は、協定校が定める語学能力に関する証明書の提出や、面接等に合格する必要があります。

上記の留学期間はモデルケースであり、留学期間を限定しているものではありません。

留学期間は概ね、半年～1年程度です。

人文学研究科芸術学専攻カリキュラムマップ_博士後期課程 学位プログラム「芸術学」

| 専攻 最 先 端 と 深 い 学 識 | 高 度 な 教 養 | 国 際 性 | 高 度 な デ ザ イ ン カ | 教 育 目 標 | 博士後期1年 | | | | 博士後期2年 | | | | 博士後期3年 | | | |
|--|-----------------------|-------------|--------------------------------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | | 春 学 期 | 夏 学 期 | 秋 学 期 | 冬 学 期 | 春 学 期 | 夏 学 期 | 秋 学 期 | 冬 学 期 | 春 学 期 | 夏 学 期 | 秋 学 期 | 冬 学 期 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|------------------------------------|--|--|--|------------|--|--|--|------|--|--|--|
| 芸術学全般に関する幅広い教養と、その教養を常にアップデートする高度な情報リテラシーを身につけ、独創的な研究を自立して行うのに十分な能力を有している。 | ○ | | | | 高度教養教育科目 | | | | | | | | | | | |
| 芸術学諸分野の研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、文献を正確に読解する高度な専門性を身につけ、先端的な研究を自立して高度に実現する能力を有している。 | ○ | | | | 大学院横断教育科目・大学院副専攻プログラム・大学院等高度副プログラム | | | | | | | | | | | |
| 明解な論旨で一貫した構成の論文を自立して作成しうる、十分に高度な論述能力と豊かな文章表現力を身につけている。 | ○ | | | | 専門教育科目 (他専門分野の科目) | | | | 博士 予備論文 | | | | 博士論文 | | | |
| 日本と世界の多様なジャンル・領域の芸術の研究を通して、異文化に対する高度な知識、鋭敏な感受性および深い理解力を、極めて高度に身につけている。 | | ○ | | | 海外留学※ | | | | | | | | | | | |
| 自立した研究者として国際的に活躍できる高度な言語運用能力を身につけている。 | | | ○ | | 高度国際性涵養教育科目 | | | | | | | | | | | |
| 先行研究を広く踏まえつつ、芸術に関する知の地平を拡大する豊かな感性と優れた探求能力に基づき、現代社会の諸問題を解決する構想・デザイン力を身につけている。 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 芸術学に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力に基づいて、独創性を備えた博士論文を作成することができる。 | | | | ○ | 博士論文作成演習 | | | | | | | | | | | |
| 特定の課題について独創性のある研究成果をあげることができる。同時に、芸術学領域の幅広い分野を網羅した本学位プログラムの特徴を生かし、芸術諸分野に関するジェネラリスト的で高度な職能を養うことができる。 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |

※海外留学は、必須ではありません。

交換留学を希望する場合は、協定校が定める語学能力に関する証明書の提出や、面接等に合格する必要があります。

上記の留学期間はモデルケースであり、留学期間を限定しているものではありません。

留学期間は概ね、半年～1年程度です。